

“自然と共に伸びる運動”実現のための5カ年計画(2015-2016) (案)

人類光明化運動・国際平和信仰運動は、全ての人は神の子、病気、罪も如何なる苦しみも無いという真理に目覚めさせる運動である。神の命は我が命であり、全ての人も物も神の命と一体である。其れゆえに、他の生物に対して行う行為は、実際に自分自身にこの同じ行為を実践することになる。大聖師谷口清超先生の御著書『愛は凡てを癒す』には、次のように記されている。

愛は凡てを成就せしめる。愛は凡てを生かす。そして愛は凡てを癒すのである。吾々人間の社会に、今最も要求されているのは、この凡てを癒すところの深い愛であると思う。人類は、愛を見うしなう時、滅亡するのである。原子爆発を起すその同じ力が、人間の愛によって励気づけられるならば、凡ゆる人類の福祉の原動力となる電力として世界の文明を潤すことにもなるのである。家庭においてもそうである。家庭の一切を生かすのが親子の愛であり、夫婦の愛であり、兄弟姉妹の愛であり、姑と嫁との愛であり、その愛が家庭の一切の人々を現実的に即刻に救うのである。(『愛は凡てを癒す』はしがき)

現代社会の混乱はこの深い愛を忘れ、真実を無視して、たとえ他の生き物に苦しみを与えても自分自身の幸せを得ようとする。我々は他の人々や生き物のために善を行う時のみ、真の幸福が得られることを知っている。しかしながら、この真理を知らない為、人々は他の方法で救いを求め、全く別の方向へ歩む。このような人たちに真理を伝えるのが吾々の運動である。他面では、環境問題が世界の科学者や大半の指導者の大きな懸念である。大規模の突風や台風、干ばつ、嵐、竜巻や地震などで世界の多数の人々が犠牲になっている。ブラジルも例外ではない。嵐や突風、干ばつや洪水、又異例の竜巻などが起こっている。これはすべて人間による自然の違反に起因すると科学者は主張する。生長の家では創立当時から自然と調和した生き方について主張している。大聖師谷口清超先生の御著書『楽しく生きるために』には次のように示されている。

こうして最近地球がとても荒れずさんで来た。そうなると気候が変わって来て、雨が降らないところもふえるし、大雨が降ると雨水がどっと流れてきて、田畑や家を押つぶすというようなことも起りだし、今いろいろの問題が出て来ている。最近も火山が噴火したり、大洪水が起こったりしているが、これは地球が人々に“ある警告”を出しているのだということもできるだろう。(後略)(前略)例えば人や生物を傷つけると、やがてこちらが傷つけ返されることになってしまう。だから森やけものを傷つけたり殺したりしていると、そのつけが返って来て、人間の方が自然から傷つけられる。(後略)(『楽しく生きるために』15-16ページ)

(前略)人間は今まで地球の生物を傷つけすぎて来た。だから人間も食糧難になったり、天候異変や、災害など(後略)(『楽しく生きるために』16ページ)

同書 16 ページで次のように記している。(前略) 人と人との間でも、相手を傷つけると、こちらも何かの形で、いつかは傷つけられて不幸になるものである。その代り、相手を愛し、守り、育て、ふやしてあげていると、こちらもまた愛され、守られ、そして恵まれるのである。

これは人々の生活様式に大きな変化がない限り、人間が本当に幸せになることができないことを意味する。

2014 年ブラジルで開催された「世界平和のための生長の家国際教修会」で、環境問題は、肉食と直接関連していることが強調された。それによって私たちの食事のメニューから緊急に肉食を排除する必要がある。既に、2006 年の国際教修会で総裁、谷口雅宣先生は、私たちは欲望を制御し、肉食を削減することによって動物の殺害を削減することが出来、地球温暖化の速度の低減に貢献できる。公的機関の発表によると、ブラジルは 5 番目に人口が多い国であり、インド、オーストラリア、アメリカ合衆国に次ぎ、世界最大の牛肉輸出国である。又アメリカ合衆国に次ぎ、世界で 2 番目の牛肉消費国でもある。ブラジルは、伐採面積の 80% が放牧システムで飼われている肉牛のためである。他の地域では穀物が生産され、内三分の一は家畜の餌となる。これは、肉の消費量を増やすことによって、より多くの森林破壊が行われることになる。したがって、人から奪ったり苦しめたりする生き方ではなく、人間と全ての生き物互いに愛を与える真に生長の家の教えを生活行動に採用することが重要である。この行いを生長の家信徒、非会員の日常生活の中で実践すべきである。

以上の観点に基づき、“自然と共に伸びる運動”実現のための 5 カ年計画を提示する。

1. 平和・自然環境・天然資源の問題解決への貢献

国際本部の 5 カ年計画 - 地下資源文明とは地下からエネルギー資源を利用し、エネルギー源を化石燃料や原子力に求め、自然破壊による経済発展を企て、欲望追求を優先する文明である。人類は、再生可能の“地上資源文明”の構築に向かって前進しなければいけない時が来たという。即ち、自然エネルギーを活用し、限りある資源も循環により持続させ、全ての生物が共存共栄する、“新しい文明”への転換の時であるという。

<2015 年度からの取り組み> :

- a) 肉の消費を減らし、自然に対しても慈悲喜捨の四無量心を行ずる。
 - a.1) 環境問題への意識を深めるため、ノーミートの食事の普及を拡大する。そのため、練成道場、伝道本部、教化支部などにおける食事から牛肉及び豚肉を廃止する。
 - a.2) “新しい文明”の在り方のモデルとして、“森の中のオフィス”のコンセプトや意義を学習コースや勉強会で取り入れる。

- a.3) 伝道本部、伝道本部別館、ブラジル生長の家の全ての教区に、太陽光発電、風力発電、畜充電、電気自動車などの環境技術プロジェクトを導入する。
- a.4) イビウーナ練成道場を、再生可能エネルギー、水の再利用、リサイクル、有機農業の基準の中心として位置づける。
- a.5) “練成道場で行われる練成会では、『観世音菩薩讃歌』（翻訳完成後）と『大自然讃歌』の読誦を行う。

2. “質の高い組織運動”の実現

- a) ブラジル生長の家は講師や光明実践委員のために、学習資料を作成し、それに基づいた指導を、学習コースや勉強会などで行う。
- b) ブラジル生長の家は、子供会やジュニア会などを開催し、後継者育成のために、積極的に活動する。そのために、伝道本部や教化支部に委員会を形成し、それらはその活動の方法や目的を決める。この運動はすべての組織の責任によって展開する。
- c) ブラジル伝道本部は国際本部と協力して、『大自然讃歌』（スペイン語）、『観世音菩薩讃歌』（ポ語・スペイン語）の翻訳に取り組む。
- d) ブラジル生長の家は、新たな人に日常的に「三正行」と「日時計主義」の実践を行うために、新しい支部や地区連合会を発会して、定期的に会や生長の家の日曜日などを拡充し、真理を伝える機会を増大する。
- e) **組織の活性化** — 組織活性化プログラムは全ての支部、地区連合会で行われる誌友会をより活発、整理、且つ構造化されたものにするよう、積極的に活動する。ブラジル生長の家の実質的、有効的な人類光明化運動のために、地区連合会の拡大のため、個人や組織の能力、聖なる目的、生長の家の使命、教義の本質を統合的かつ集中的に焦点を当て組織の発展を促進することを目標とする。

第2次5カ年計画最終年度、2016年度運動のキーポイント

<2016年度からの新たな取り組み>

1. 平和、環境、資源問題解決への貢献

A) 環境教育指導講師の養成

1. 2016年7月29日～31日に森の中のオフィスで開催される体験型の環境教育プログラムを取り入れた国際教修会に講師・光明実践委員の参加を勧める。
2. 練成道場で開催する練成会、見真会において環境教育を施す指導講師を養成するための講師・光明実践委員研修会の開催

- ##### B) 倫理的な生活者 — 幹部・信徒は、信仰に基づく倫理的な生活（*cidadão ético*）として、居住地の生長の家の拠点、及びそれぞれの生活の場において“ノーミート、低炭素の食生活”、“省資源、低炭素の生活法”、を実践すると共に生長の家の御教えを以下の方法で伝える。

また、“生長の家 自然の恵みフェスタ” や生長の家ブラジル伝道本部が設置、管理するインターネット上のソーシャルネットワークなどを活用した場でそれぞれの取り組みを紹介し、喜びの輪を広げていく。

1— ノーミート、低炭素の食生活

イ、総裁谷口雅宣先生のご指導に従い、真理を深く研鑽し、神・自然・人間の大調和を通して、世界平和を目指す“自然と共に伸びる運動”の理解を深め、身近な人々に伝える。

ロ、伝道本部、練成道場、教化支部などの行事において、国際本部が提供する“森の中のオフィス” や “いのちの樹林” を紹介するビデオ、“食卓から平和を！”、“食が結ぶ人・地域・自然”の動画を翻訳して活用する。

ハ、食材を購入する際には、できるだけ地産地消、旬産旬消を心がけ、自然食品や非加工食品、オーガニック食品を選ぶことでフードマイレージ（食品を運ぶ距離）を減らし、地元の農漁業の振興に心がける。

二、家庭菜園や共同菜園、植林、樹林などを体験して、自らの生活と自然とのつながり実感し、自然の恵みに感謝する。

2— 省資源、低炭素の生活法

イ、可能な場合は、環境負荷の低い交通手段として通勤や通学に公共交通機関、または環境負荷の低い燃料を利用する。

ロ、可能な限り、太陽光、風力など環境負荷が少ない再生可能の自然エネルギーを電源とする電力を使用する。

C) 生長の家 “自然の恵みフェスタ 2016” 開催 — ブラジル伝道本部はイビウーナ南米練成道場の敷地において同フェスタを 2016 年度に行い、将来その経験を教化支部にも共有してもらうように務める。このフェスタには地域の人達にも参加してもらい、自然とともに伸びる生活法を認知させることを目指す。

D) カーボン・ゼロ — 伝道本部は 2020 年まで燃料削減の具体策を講じるための調査・研究を行い、その後カーボンゼロ実現を目指す。

<旧年度からの取り組みで力点を置くもの>

- A) 伝道本部、伝道本部別館、教化支部、において太陽光、風力など再生可能なエネルギー使用を目指してそのプロジェクト作成に乗り出す。
- B) 引き続きイビウーナ南米練成道場を、再生可能エネルギー、水の再利用、リサイクル、有機農業の基準の中心として位置づけるための具体策を検討する。
- C) 練成道場で行われる練成会・見真会において、参加者に自然と調和した生活法の重要性を知ってもらうために “大自然讃歌”、“観世音菩薩讃歌”及び “万物調和 6 章経”の読誦を組み込む。

2. “質の高い組織運動の実現”

2016 年度からの新たな取り組み

- A) 魅力ある第 1 線組織の実現 — 伝道本部は国際本部に協力して、新人の受け皿として“魅力ある第 1 線組織”を実現するため組織間共通の手引きを作成配布して活用し、行き届いたお世話活動を展開する。
- B) 伝道本部は“魅力ある組織”を実現するため、組織間が協力して、教化支部の特徴や教勢の違いを生かして良いところを伸ばしていく活動を独自に企画し実施した教化支部を評価し、表彰する。
- C) 国際本部はインターネット上と地域に根ざした運動の相乗効果を図るため、講師の教階に応じた活動範囲を見直し、世界のグローバル化に対応した講師の教育方針を確立する。ブラジル伝道本部は、ブラジルの実情に合わせた方法を検討しながらブラジル国及びブラジル伝道本部が統括している国の教勢発展を図りつつ、国際本部の指導に従う。
- D) 国際本部は、“自然と共に伸びる運動”を国際運動として統一的・組織的に展開していくため、インターネット上のウェブサイトやソーシャルメディアなどの活用方法を見直して改善する。また、国内外で発行している紙媒体とインターネットで配信する情報を整理して連動させ、より効果的な情報発信と運動の発展を目指す。ブラジル伝道本部は国際本部の指導に従う。

<旧年度からの取り組みで力点を置くもの>

- A) 後継者の育成 — ブラジル生長の家は、子供会やジュニア会などを開催し、後継者育成のために、積極的に活動する。そのために、伝道本部や教化支部に委員会を形成し、その委員会は活動の方法や目的を決める、また、委員会を統括する人選をもその委員会で行う。
- B) ブラジル伝道本部は国際本部に協力して、新たな翻訳体制の指導に従い、『大自然讃歌』、『観世音菩薩讃歌』（スペイン語）及び“万物調和 6 章経”（ポ語、スペイン語）の翻訳に取り組む。また、ブラジル国やブラジル伝道本部の統括下にある国で行う行事で放映するビデオの翻訳をも行う。
- C) **幹部・信徒は「三正行」を実践し、「日時計日記」を活用して「日時計主義」の生き方を実践する。**また、定期的に行う講演会、例会や“生長の家の日曜日”などを拡充し、新人に真理を伝える機会を増大する。